

『臨床倫理学』 1 刊行にあたって

医療活動は、医学的・技術的視点と並んで、〈倫理〉と呼ばれる視点からも吟味され、評価され、また、これから何をすべきかについての指針を与えられる。そこで医療に専門的に携わる者には、そうした倫理的視点を身に付けて、実際に活かすことが要請される。臨床倫理検討システム開発プロジェクトは、そのような要請に応えるべく、医療従事者が現場において事例に即した検討をするためのシステムおよびツール類を整えることを目指している。

本誌は、このような臨床倫理の営みが各医療現場に普及すること、また医療現場における実践をフィードバックしつつ、理論的検討を深化させることによって臨床倫理学研究のさらなる発展を推進することを目指して、刊行される。

したがって本誌は、臨床倫理検討のための各種ツールについての情報、臨床倫理検討の事例報告、医療の諸場面における特化した倫理的ガイドラインや諸ルール、臨床倫理学およびその周辺の研究論文等を掲載する予定である。次号以降、内容を充実させることに心がけ、随時刊行して行きたい。投稿を歓迎する。

なお、本号は、1999年度の研究成果のまとめでもあって、ことに臨床倫理検討シートの開発に関しては、サントリー財団から補助金を受けたことを、謝意を込めて記しておく。また、本号の一部には、1999～2001年度に互る文部省科学研究費補助金による研究の中間成果も含まれている。

——臨床倫理検討システム開発プロジェクト

代表：清水 哲郎

事務局：980-8576 仙台市青葉区川内

東北大学大学院文学研究科哲学研究室内

TeL/FaX: 022-217-6031

Email: shimizu@sal.tohoku.ac.jp

URL: <http://www.sal.tohoku.ac.jp/phil/CESDP/index-j.html>

『臨床倫理学』 1 2000 —目次—

＊特集：臨床倫理検討シートを使いこなす	— 1
● ステップ1：情報の整理と共有	— 4
● ステップ2：検討とオリエンテーション	— 8
● ステップ3：合意を目指すコミュニケーション	—12
● 本システムの基本的コンセプト	—15
● 使ってみました——事例のいくつか	
— 三浦 るみ 患部切断か温存か	—22
— 星野 彰 頸部食道癌によって摂食困難になった患者への腸瘻造設の是非	—27
— 清水 哲郎 ビデオ教材による臨床倫理検討の試行	—29
———臨床倫理の理論と実践———	
緩和ケアの臨床倫理——理論と実践	—34
● 清水 哲郎 緩和ケアの倫理	—35
● 星野 彰 予後の悪い患者への透析の是非	—40
● 新藤 哲 患者の消極的対応——事例検討	—45
———臨床倫理学の周辺———	
● 福間 聡 高価な趣味に対する補償と責任	—48